

2015年4月5日 イースター聖餐礼拝

説教「夜明けの光」

マタイの福音書 28章 1-10節

【死の力の支配】

イースターおめでとうございます。その日の朝、主イエスが復活されたことをまだ知らない弟子たちは、がっくりと力を落としていました。彼らが救い主だと信じていた主イエスは、十字架に架けられて死んでしまいました。弟子たちが主イエスを信じたことも、結局すべてはむなしいことだったと思えたのです。あの主イエスでさえも、死の力には勝つことができなかったのだ、と弟子たちは嘆きました。弟子たちは、死の力に打ち負かされてしまったのです。

弟子たちだけではありません。人はみな、死の力に押さえつけられていて、死の力に勝つことができないと感じています。

【復活の勝利】

人には死を超えることができません。けれども、神にはできます。神は、二千年前に実際に死を超えてみせてくださいました。主イエスの復活によって、死の力を打ち負かしてくださいました。私たちも主イエスに続いて復活することができます。主イエスが復活の道を切り開いてくださいました。私たちが主イエスを信じて、主イエスが切り開かれた道についていけばよいのです。だから、一度は死ななくてはならないお互いだけれども、それでも喜ぶことがで

きるのです。

【喜びの不意打ち】

弟子たちはみな、主イエスからあらかじめ、十字架と復活について聞かされていきました。けれども弟子たちは、何度聞いてもよくわかっていなかったようです。それは、弟子たちはわかりたくなかったからかもしれません。主イエスの死のことを聞きたくなかったのです。信じたくなかったのです、そしてその結果、恐れてうずくまっていたのです。

その弟子たちに比べて、女性たちは、勇敢でした。彼女たちが弟子たち以上に、主イエスの十字架と復活について理解していた、というわけではありません。けれども主への愛ゆえに、彼女たちは墓を訪れました。その彼女たちを主イエスは、とても喜ばれました。だから主イエスは喜びの不意打ちをなさいました。まるで、主イエスの方が待ちきれないかのように、女性たちに現れてくださったのです。

「すると、イエスが彼女たちに出会って、『おはよう』と言われた」(9)とあります。「すると」とあるのは、「見よ」、たいへん強い言葉です。「出会って」は、「迎えに来られて」と訳した方がよいことば。「おはよう」は、そのように訳せないこともないのですが、むしろ「喜びなさい」の方がよいでしょう。ですから、ここを訳し直すと、「見よ、イエスが彼女たちを迎えに来られて、『喜びなさい』と言われた」と

なります。

彼女たちの理解の遅いことを責めないで、ただ愛してくださった主イエス。愛するために、死の力を打ち破って復活してくださった主イエスのお姿です。彼女たちに注がれた主イエスのこの愛は、今私たちにも注がれています。

【夜明けの光】

やがて、ガリラヤにもどった弟子たち。彼らの多くは、もともと漁師でした。だから、自分たちは、またもとの漁師にもどって、なんとか生きて行くのかなあ、と思っていたかもしれません。ところが、主イエスは、彼らにそうではない生き方を指し示されました。「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」(19)とあります。ガリラヤにとどまらないで、あらゆる国へ出かけて行くようにとおっしゃったのです。それが主イエスに愛される者の生き方、新しい生き方です。

キリストの弟子となることは「光」となることです。主イエスは夜明けの光。死の力の暗やみを打ち破った夜明けの最初の光。そして、主イエスともに生きる者たちを、主イエスは、光としてくださいます。その光は地上の生涯を終えた後でも、消えることはありません。やがて、この世の終わりに主イエスがもう一度来られるとき、私たちの光は主のまぶしい光といっしょになって、輝きます。そのとき、死はひとかけらのかげも残すことなく、なくなるのです。